



草の根通信

< 2005.9.20 >

Vol.46 & 47
(合併号)

URL: <http://www.manjiro.or.jp>

E-mail: info@manjiro.or.jp

国際草の根交流センター
住所: 〒102-0083 千代田区麹町2丁目
12-18 グランアクス麹町602号室
電話: 03 3511 7171 // Fax : 03 3511 7175

第15回日米草の根交流サミット東海大会・報告

第15回東海大会 報告

第15回日米草の根交流サミット東海大会は2005年6月22日～28日の6日間開催されました。開催地は愛知県、岐阜県、三重県の10都市です。オープニング・セレモニーはトヨタ産業技術記念館で行い、クロージング・セレモニーは犬山市明治村で行いました。

アメリカ人参加者は182名、スタッフやホストファミリーなどの日本人参加者1351名となりました。

今回のアメリカ人参加者は学生参加が多く、学校としてはコロラド州のシャイアン・マウンテン・ハイスクールのプラスバンドが49名、コロラド州立大学からは11名、ニューヨーク州のハービー・スクールからは13名、ほかに3名の学生が参加しました。

オプション・プログラムは、6月28日から3泊4日のホームステイ・プログラムとして、6ヶ所で行われました。地域は十勝(北海道)、山形、庄内(山形県)、栃木、千葉、広島でした。

大会日程

- 6/22(水) 米国人参加者中部国際空港到着、ホテル泊
- 6/23(木) 愛・地球博の見学
オープニング・セレモニー、ウェルカム・パーティー
ホテル泊
- 6/24(金) 地域分科会、ホームステイ
- 6/25(土) 地域分科会、ホームステイ
- 6/26(日) クロージング・セレモニー、フェアウェル・パーティー
ホテル泊
- 6/27(月) 京都へ移動、観光、ホテル泊
- 6/28(火) 帰国、またはオプション・プログラム参加
< 6/28～7/1 オプション・プログラム >

オープニング・セレモニー、ウェルカム・パーティー

6月23日の午前中は、参加者は愛知万博を見学しました。正午にはアメリカ館の前の広場でシャイアン・マウンテン・ハイスクールが演奏を披露しました。
午後には、リタケの森とトヨタ産業技術記念館を見学しました。
オープニング・セレモニーはトヨタ産業技術記念館の大ホールで行われ、457人が参加しました。〔アメリカ人117人 / 日本人340人〕

オープニング・セレモニー

からくり人形「弓射り童子」「茶運び人形」実演 9代目玉屋庄兵衛
 開会ことば : 石田芳弘、東海大会ボランティア実行委員会代表
 歓迎挨拶 : 田口俊明 (財)国際草の根交流センター 理事
 挨拶 : GARY G・OBA、米国大使館 名古屋領事館 首席領事
 アプリケーション: オープニングパーティー協力団体への謝辞
 お酒の鏡割 : 盛田「味の館」、大庄の提供

【日本側】 石田芳弘、東海大会ボランティア実行委員会代表
 安井義博、名古屋商工会議所副会頭・愛知日米協会会長
 田口俊明、(財)国際草の根交流センター理事

【米国側】 MATTHEW CARPENTER、CIE-US代表
 FAYE ASANO、参加者代表
 BRONWEN BUSWELL、学生代表

ウェルカム・パーティー

ロボット実演
「イフボット」(写真右)
ビジネスデザイン研究所
「ASUKA」(写真左)
名古屋工業大学
梅崎研究室



愛知万博
を見学(左)
リタケの森
(右)



石田芳弘氏



トヨタ産業技術記念館



玉屋庄兵衛氏



からくり人形



田口俊明氏



GARY G. OBA氏



鏡割りをする代表者、



大庄(株)社長
平氏



クロージング・セレモニー、フェアウェル・パーティー

6月26日の午前中、参加者は犬山市に集まり、ホストファミリーと一緒に犬山城見学しました。お昼は犬山市野外活動センターで、ボランティアが用意してくれた流しそうめんとてんぷらを楽しみました。午後からは明治村に移動し、クロージング・セレモニーまで村内を見学しました。午後2時から犬山市の丹羽高校プラスバンドとシャイアン・マウンテン・ハイスクールがそれぞれ演奏を披露しました。午後4時から行われたクロージング・セレモニーは長崎から移築された聖ザビエル天主堂(明治村内)で行われ、その後フェアウェル・パーティーは旧帝国ホテル(明治村内)で行われました。586人が参加しました。(アメリカ人182人/日本人404人)



犬山城を見学する参加者



野外センターで流しそうめんを体験

クロージング・セレモニー

挨拶 : 石田芳弘、東海大会ボランティア実行委員会代表

地球儀交換 : 中濱文、ロバート・ホイットフィールド

歌 : 「ジョン万次郎賛歌」 フォーク・ウェーブ

挨拶 : 田口俊明、(財)国際草の根交流センター理事

第16回サミットコロラド大会お知らせ :

ポール・マルヤマ、CIE-US副理事長

マシュー・カーペンター (CIE-US理事)

クリスティーナ・シャンク (コロラド・スプリングス分科会)

ウィリアム・デクスター (テラー・カウンティ分科会)

アイヴァン・ウィダム (ロイヤル・ゴージ・カウンティ分科会)

ドゥワイト・ハリソン (ラ・ヴィータ分科会)



石田芳弘氏



地球儀交換(上)/フォーク・ウェーブ(下)

クロージング・パーティー

< 旧帝国ホテル前(明治村内) >

踊り : 笑(ジョウ)

< 旧帝国ホテル内(明治村内) >

「ジョン万次郎賛歌」フォーク・ウェーブ

琴の演奏、久保井みち代



①



田口俊明氏
(左)

ポール・
マルヤマ氏
(右)



③



②



第16回日米草の根交流サミットコロラド大会 お知らせ

シャイアン・マウンテン・ハイスクール・プラスバンド

6月23日@愛知万博

アメリカ合衆国パビリオン前で演奏



6月26日@明治村

旧帝国ホテル前で演奏



地域分科会

名古屋 (愛知県)

< 担当者より >

名古屋は、まちづくり活動に取り組む陽輝荘の会が担当しました。「現代」と「伝統」が調和した街、名古屋の中でも、緑が多く残る覚王山をご案内しました。

午前中は参道を歩いて日泰寺へ。そこから古川美術館の別館でお抹茶をいただき有松絞の展示を鑑賞。昼食後陽輝荘(松坂屋の創始者の別荘)で日本の伝統芸能である狂言の教室を開催し、みなさん狂言方の佐藤融氏の演技に拍手喝采されていました。衣装の着付を体験された方も喜ばれていました。元カナダ美術館員の方の「日本の美」についての講話を拝聴後、愛知県在住の留学生や名古屋市民の方を交えて交流会を催しました。

その後、ホストファミリー迎えに来られてご家庭へ帰られました。



陽輝荘で狂言教室



着物を着せてもらう参加者



ホストファミリーとお食事



ホストファミリーと記念撮影

Mファミリー 参加者: Ms. C (母娘)

母娘と、名古屋地区分科会、午後の会場である陽輝荘で対面し、私と長女を合わせた4人で、日頃触れることのない狂言や日本文化に触れたプログラムをまず最初に楽しませていただきました。

翌日は、彼女達の希望で、名古屋城では金鯱のない貴重?な外観を仰ぎながら庭を歩き、天守閣も見学。遅い昼食後に娘さんの来日目的のひとつであるアニメグッズを捜す為に、私も知らない世界を体験できました。

夕食は、味噌汁などで普段我々が食べている物が食したいということで、一緒にスーパーへ買出しに行き、ご所望の照り焼きを中心に雑然たる普段の我が家の夕食となりました。

食後の子供達はコミック本やグッズで盛り上がっていました。疲れも手伝い、和室の布団でも十分な睡眠が取れたようでした。

翌日は、犬山城、野外活動センターでの流しそうめん、明治村での交流演奏会、クロージングと、盛り沢山のスケジュールを満喫。少々疲れ気味にもかかわらず、ボランティアの皆様のおかげで楽しい時間を過ごすことができました。

二日後には、京都のホテルから礼状も届き、彼女達の喜びが伝わり、家族一同改めてこの草の根交流サミットのすばらしさを感じました。スタッフの皆様お疲れ様でした。貴重な体験をありがとうございました。

Kファミリー 参加者: Mr. & Mrs. H

54歳と51歳のご夫妻がホームステイされました。お嬢さんとその友人は私の妹の家にステイして、2日間共、2家族がそろう9~10人の賑やかな日本の晩御飯になりました。手作りの日本食ですが、ヘルシーといっても喜んで食べてくださいました。

奥さんは、父上が日本と陶器などの貿易の仕事をなさっていて、日本には大変な興味を持っておられました。小さな草花から食べ物、着物、ふとん、お風呂、日本家屋、ごみの分別 リサイクル、なんでも興味を示しよく理解し、質問されました。妹はNativeの人のように英語が使えて熱心に討論したり質問に答えたり出来たので、よく日本を知っていただけたとおもいます。若い2人には日本のアニメに大変興味があり彼らのたくさんの作品を見せてもらいました。とてもうまくかけていて、できればデザイナーになりたいとか、きっと良い刺激になったことでしょう。

2日目に訪れた熱田神宮では、神前の伝統的な結婚式が本殿横の半分は庭に開放された式場で行われていて羽織袴の花婿、白無垢の花嫁、神主さん、巫女さん、祝詞と、百聞は一見にしかずの幸運なChanceに恵まれました。このように熱心なアメリカ人そしてフレンドリーな娘さんと妹の娘たちと最高のくみあわせで、楽しく、感動的な3日間を過ごしました。旦那さんは、電気のエンジニアで、時々東京のSonyに出張で来日、奥さんは将来、日本で英語を教えながら、日本について学びたいと希望され、娘さんも日本語を勉強されている親日一家で、彼らの希望が叶うように祈りつつ、草の根の交流の一端が続けられたらと思っています。



ホストファミリーと記念撮影

犬山 (愛知県)

< 担当者より >

「木曾川の流れに古城が映える 歴史と自然が融合するカラクリの街」
犬山市の北東部は、風光明媚な飛騨木曾川国定公園内に位置し、河川美日本一といわれる木曾川が流れる有数の景勝地です。博物館明治村を始め犬山城下には江戸時代の町人文化が感じられる町並みが残り、国宝犬山城、文化史料館やどんでん館、国宝茶室如庵など文化の香り高い施設が集中しており、一大カルチャーゾーンを形成しています。

さらに、この地には、江戸時代から続く日本屈指の祭りである「犬山祭」があります。この自然美と歴史的な町並みや施設を約2時間かけて見学した。また、犬山祭の最大の見所である車山の状況を昼と夜のシチュエーションで見学し、車山の最上部で演じられるからくりをインストラクターの指導のもとに体験しました。



からくり展示館で説明を受ける



五平餅店の前でかき氷を食べる

Tファミリー 参加者:Mr. I

私は今度の日米草の根サミット東海大会でI氏のホストファミリーを務めました。私は今まで何回もホストファミリーはやりましたが、いつも初めは緊張します。しかし彼と少し話すと、たちまちその心配も吹っ飛びました。実に豪快で爽やかな人柄の方で楽しい話の連続でした。その中の一つをご紹介します。

彼の家は自然に囲まれたコロラドスプリングにあるのですが、家になんとキツツギがくるのだそうです。朝早く寝ているうちに大音響で家をつつかれては堪らず、最初はフクロウの案山子で追い払っていたのですが、そのうち案山子では効かなくなりまた家をつつき、今度は金属製の桶をつつきました。その凄まじい音にとうとう彼も直接行動に出て、息子が子供の時使った高圧水鉄砲で撃ってやったそうです。これは効いてそのときだけは逃げるのですがまたすぐ寄ってくるので、攻防戦を繰り返しやっといなくなったと思うと、今度はリスがやって来てキツツギの穴を拡大し巣を作り始めたそうです。その内穴を通り家の中まで出没し始めましたが、最初は可愛いのでピーナッツなど餌をやっていたところ、どんどん数が増え家の中をみんなで走り回るようになりました。これでは落ち着いて生活できないので、とうとう罟を仕掛け捕まえては、離れた公園まで車で捨てに行く生活になりました。これでやっとリスの人口を安定させ平穏な生活を取り戻したそうです。

彼と過ごした日のうち一日は自由行動だったので、大正村にご招待しました。大正や昭和の初めの建物や家具や電気製品をゆっくり見て、ご苦労なされた過去の日本的な生活を思い感慨深く見て回っている様子でした。その夜はよそで働いている息子が久しぶりに帰宅し、居酒屋でゆっくり酒を酌み交わし、苦労話に花が咲きました。来年の草の根交流は、コロラドで開催されるそうで、私たちが招待を受けました。もし都合がつけば私たちが一度アメリカを訪問し、また彼とゆっくり話したいと思いに楽しみにしております。

Kファミリー

初めてのホストファミリーをしましたが、とても楽しかったです。言葉の違いはありましたが、伝えようとする側と、理解しようとする側が、心通わし、短い間でしたが、本当の家族のように思いました。

彼女が話してくれたアメリカの話に、まるで自分もアメリカ人になった気分にもなり、なおかつ、ソバ打ちや、手焼きせんべい体験など、日本の文化にも一緒にトライしました。

彼女は別れ際に「ありがとう。」と言ってくれましたが、こちらの方こそ、私の家族になってくれてありがとうという気持ちでいっぱいでした。またぜひ、ホストファミリーをやってみたいと思います。



ホストファミリーとお食事



ホストファミリーと記念撮影



青塚史跡公園を訪れ、記念撮影



ホストファミリーと記念撮影



ホストファミリーと記念撮影



武田薬品工業株式会社

半田 (愛知県)

< 担当者より >

半田の分科会では、「港町に栄えた日本の食文化、酢とお寿司」をテーマに、半田の食文化・歴史に触れていただきました。

初日は博物館「酢の里」でお酢の魅力を見学し、昼食ウェルカムパーティーでは「尾州早ずし」を食べてもらいました。その後「半田市立博物館」で山車祭りを見学し、「酒の文化館」では日本酒を堪能。そしてここでホストファミリーと再会、日本酒のお土産を片手にホストファミリーの家でゆっくりと過ごしていただきました。

2日目は、ホストファミリーと終日過ごしていただき、それぞれの思い出ができたようです。



博物館「酢の里」で記念撮影

Hファミリー 参加者: Mr. D

英会話が決して得意ではない私達が今回初めてホストファミリーを引き受けることにしたのは、子供たちにとって良い経験になればと思ったからです。

英語は通じるだろうか、食事には何を出したらよいか、どんな対応をすれば良いかなど、不安はいっぱいありましたが、事前にもらったE-mailに、日本に来たことがあり、日本食はOKとの自己紹介があっちょと一安心でした。

我が家に来ていただいたD氏は、コロラド在住の地質学者で元大学教授。大学で物理や地質学を教えられた後、リタイアした現在は自然公園でレンジャーとしても活動されているアウトドア派のとても元気なおじいちゃんでした。

最初は恥ずかしがってなかなか打ち解けなかった様子の子供達でしたが、沢山のきれいな石(鉱物)や化石などをお土産にもらって興味を示したのか、次第にニックネームで呼び合うことができるようになりました。普通の生活をしながら、できるだけ日本らしさを紹介しようということで、和食を中心におもてなししようと計画しました。日本好きな彼は、日本食が大好き。“箸の使い方は難しい”と言いながらも何度もトライして、夕食に出した豆腐を使った料理もとても気に入ってもらえました。翌日にはお隣の家族も加わって手巻き寿司パーティーを行いました。これは“real sushi”だ”とてもハッピー”と大変盛り上がった一日でした。土曜日の昼間は、ランチを食べに行くついでに知多半島を河岸沿いにドライブして過しました。途中、地層がむき出しになっている場所を案内したところ、とても興味深いと関心されたようで、“この黒い層は火山灰だ”、“地殻変動でこんなに地層が隆起している”とか、素人にも“なるほど”と思うような地質学のスペシャリストらしい説明をしてもらいました。さすが元大学教授ですね。

趣味も多彩のようで、子供がピアノの練習をしているのを誉めてくれた後、即興で何曲か自ら弾いてみせてくれました。その演奏のすばらしいこと、ちょっと感動ものでした。聞いてみると、音楽は好きだがピアノは習ったことはないとのこと。耳でよく聞いてコードをいくつか覚えればそんなに難しいことはないらしい。うらやましい。

滞在中彼にとって残念だったのは、蒸し暑い日が続いた日本の気候。涼しい高地のコロラドから来た彼にとっては、とてもつらかったようですね。この時の暑さは慣れた日本人にとってもこたえましたから。

犬山でのクロージングセレモニーも含め、あっという間に過ぎた日々でしたが、不思議なもので、彼と接するうちに、是非今度は私たちがコロラドへ行ってみたいものと思うようになりました。少し英会話を勉強して実現してみたいものです。

Tファミリー 参加者: Mr. S

私の家庭にホームステイされたS氏は日本に一年半程住んでいて小中学校で英語の先生をしている事もあり、英語と日本語をお互いにお教え合うような会話が多かったです。ホームステイの間、夜はこどものバスケの練習に付き合い子供達と一緒にバスケをしたり、2日目の夜はホテルを見に行ったりしました。

昼は日本の歴史が好きだと言っていたので徳川美術館行き、日本なのですが名古屋港のイタリア村に行ったりとハードスケジュールでしたが、私も子供もとても楽しい時間が過すことが出来ました。

今回ホストファミリーをさせて頂いた事とても良かったと思っています。



半田市立博物館で山車を見学



ホストファミリーとの記念撮影



ホストファミリーとの記念撮影



書道を見学

常滑 (愛知県)

< 担当者より >

6月24日。ホストファミリーと一緒に「焼き物散歩道」の散策をしました。土管堀、陶壁、煙突や工房などが次々に眼に入ってくる陶都常滑らしい坂道です。散歩の途中で「リチャード&美重子ポタリー」を訪ねました。気さくな美重子さんとの会話を楽しんだり、焼き物をじっくりながめていたり、黒壁の古い民家それ自体を観察したりとそれぞれ楽しみました。

昼食は「盛田味の館」で、盛田酒造のお酒と、味噌に込みうどんや田楽味噌を使った料理を味わいました。日本酒が大人気でした。ほんのり赤い顔になっての食事は大盛り上がりでした。昼食後は酒倉を見学し、その日本酒ができるまでを教えてもらいました。

午後一番に挑戦した「モザイクアート」では個性豊かなコースターができてあがりました。その後世界のタイル博物館、トイレ博物館を見学しました。

最後にウェルカムパーティをして24日のプログラムは終了です。夜はホストファミリーの家ですごしました。



陶芸の工房を見学



焼き物の散歩道で記念撮影



陶芸について理解を深める



焼き物の散歩道を歩く



常滑を楽しむ参加者



ミエコさんとの会話も楽しんだ

ファミリー 参加者: Mr. & Mrs. W

皆様に感謝！が終わったあとの素直な感想です。“国同士の友好関係は個人から”とのセンターや実行委員の皆さんの想いに賛同し、一人住まいであるにも関わらずW夫妻のホームステイを気持ちよく引き受けさせて頂きました。周囲からは無謀との声とともに、暖かい支援の手を差し伸べて頂きました。ホームパーティのシェフ役を快諾してくれた友人(10品！もの豪華ディナーコースでした)。奥さんが画家なので技術屋の私に替わってパーティでの話し相手をかけてくれた後輩、殺風景だからと花を差し入れて頂いた友人や先輩。即興で水墨画を描いて友人達にプレゼントしてくれた奥さん。本来、夫妻をもてなすはずが、逆に友人達や私たちが楽しんでしまいました。

また、昼間はギャラリーを運営する夫妻の希望で名古屋市内のギャラリーホッピングを行いました。二人のお陰で、初めてギャラリーの方とじっくり話す貴重な経験をさせて頂きました。

日本人同士でも忘れかけていた、お互いを知るという気持ちの大切さ、そして、その気持ちがあれば言葉や文化の壁は乗り越えることができることを今回のホームステイで実感しました。

夫妻に日本に良い印象を与えてくれた友人に感謝するとともに、彼らには来年のCanonCity分科会の成功をお祈りいたします。



盛田酒造のお酒を堪能



酒樽を後ろにお食事



明治村でホストファミリーと別れを惜しむ

豊田 (愛知県)

< 担当者より >

くまの街、豊田。トヨタ自動車住宅という形で技術表現した「PAPI夢の家」と自動車製造工程をそれぞれ見学しました。夢の家では、家の中のあらゆるシーンがコンピューターで制御されながらも、人と地球にやさしい先端技術を体感でき、参加者からは数々の質問が飛び出すなど、興味深く楽しい時間をすごしました。また、トランペットを吹くロボットなど工場見学ではハードな豊田を、そして、ホームステイ家庭では、豊かな自然と緑あふれる街を通してハートフルな豊田を感じていただけたのではないのでしょうか。



PAPI夢の家
も見学



トヨタ自動車の前で記念撮影

Sファミリー 参加者: Ms. M

今回はじめてホームステイ受入れを経験しました。記念すべき初ゲストはMさんという67才の女性でした。一番心配していたことは、娘たち(5才と2才)の反応でしたが、彼女は元幼稚園の先生。パズル、ピアノ、歌、踊りなど遊びを通して、子供たちはすぐに彼女になついていきました。2才の娘は最初、彼女のことをおばあちゃん、おばあちゃんと呼んでいましたが、遊んでもらっているうちに名前に“ちゃん”付けで呼ぶようになりました。トイレに行くときも“Mちゃん来てよ!”と御指名でちょっと気の毒でした。食事に関しては、お刺身以外は何でもOKということで、コロッケ、ぎょうざ、マーボー豆腐などふつうの食事にしてしまいましたが、出したものはすべて食べてくれたのでとても助かりました。主人も時間が合ったときは、一緒に食事をして見送りにも同行してくれました。最終日、彼女を見送った後、自宅に戻ると娘たちはとても寂しそうでした。“Mちゃん、行っちゃったの?”と何度も聞いてきました。“楽しかった?”と聞くと“すごく楽しかった”“また来てほしい!”という返事がかえってきました。彼女のおかげで子供たちにとっての国際交流は大成功で、今後につながる大きなきっかけになったと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



ホストファミリーと記念撮影



ホストファミリーと記念撮影



ホストファミリーと記念撮影



ホストファミリーと記念撮影

Tファミリー 参加者: Ms. W

5日間に渡り、ホームステイの受け入れをしました。ゲストはアメリカのコロラド州から来た19歳の女の子です。ホームステイ受け入れは初めての事でしたので、言葉や食べ物の事等、とても不安でしたが、とにかく、「実際の日本の生活を経験させてあげる為、できるだけ普段通りの生活をしよう」と決めていました。そして、初日の朝食にご飯、味噌汁、納豆、目玉焼きなど、普段通りのメニューを出しました。結果は、ご飯と目玉焼きのみ食べてくれました。全く手つかずではなかったので、一安心しました。言葉も、片言の英語で、なんとか通じている様で安心しました。この調子で2日目、3日目が過ぎ、土曜日に来ました。1日中、ゲストと過ごす日です。日本の古い文化に触れながらも楽しんでほしいと思い、大須に妻、6歳と4歳の娘も一緒に行きました。けど、今一、大須観音、古着などの店、いろいろ、お好み焼きなどの日本の食べ物に興味がない様でした。逆に最も目を輝かせた時は、私の娘のちょっとした幼い子供らしい仕草や、ねこの絵(ゲストは家でネコを3匹も飼っているそうです。)を見たときです。こんな時、「この子(ゲスト)は、日本の文化や食などに触れるより、只、子供やネコの方が好きなんだ。好きな所に行かせてあげよう。」と思い、「どこに行きたい」と尋ねました。すると、「CDショップ」と答が返ってきましたので、栄のロフトに行きました。すると、日本のアイドルのCDをたくさん喜んで買っていました。ちょっと、日本に食文化に触れさせ様と一方的にし過ぎたと反省しました。ゲストは、19歳で私が思っている以上に若く、もう少し本人の行きたい所などの希望を聞いて、これに沿って行動をしても良かったなあと思いました。でも、最終日には「ありがとう」と日本語でお礼と言ってくれ、ほっとしました。私自信も、外国人に少しは慣れて有意義な時間でした。ゲストとは、これからもeメール等で妻と一緒に交流ができればいいなあと思っています。

津島 (愛知県)

< 担当者より >

日本ならではの豆腐作りを見学したあと、御神木の大銀杏や津島神社を見ました。神社のすぐ近くにある名物の「くつわ」を作っている店では、試食してから見学しました。堀田家では日本住居にいかされている古人の知恵や工夫について学びながら見学し、ゆっくりくつろぎました。お昼は津島に伝わる重箱うどんやそばを頂きました。

市長さんと歓談したり、ヒポファミリークラブでホームステイをしている海外からの方3名も加わり、とても国際的な草の根交流ができました。座禅体験では宇宙の中での己をみつめる時間を20分もちました。お茶を頂いたり着物を試着したり、日本の文化と歴史を五感で楽しんで頂きました。



熱心に説明を受ける参加者

Sファミリー 参加者:Ms. K

白いカーボーイハットに長いシルバーの髪の子(大学生)がゲストでした。さがつ時、白いカーボーイハットが目立ち、とても助かりました。

5泊することになる彼女から、はじめに神社やお寺がすきです」と日本語で言われ、びっくり。そして、英語のできない私はラッキーと思いました。しかし熱心に日本語を覚えようとする彼女といううちに「英語が話せるようになりたい」と気持ちにさせてくれました。

熱心なのは、日本語だけでなく、日本の文化の古いものも新しいものも、私たちの日常生活にも興味深く接するので、私も娘もやりがいのある楽しいホームステイでした。特にお琴の教室へつれていった時は、はじめてなのに「さくら」の曲をおわりまでひくほど熱心に取り組む、家へ帰ってからも練習している姿が、印象的でした。

不自由なことが多い6日間だったでしょうが、いつも笑顔でいてくれた彼女に心から「サンキュー」と言いたい。そして、来年は私がコロラドへ行くからね。それまで「シーユアゲイン」

Mファミリー 参加者:Ms. H

ゲストの調査票が届いたときから、早く会いたくてワクワクしていました。なぜなら、同性で年もほぼ同じだったから。オープニングパーティーで彼女のキュートな笑顔を見た時、彼女と出会えて良かったと思いました。

翌日は朝から蒸し暑い中、津島神社、堀田家などを見学し、海善寺で座禅も体験しました。ジーンズではきつくて座禅は大変だったようです。また津島市内の古い町並みを散策し、多くの人々に温かくむかえて頂きました。彼女は細やかな心配りに、とても喜んでいました。

次の日は七宝焼きを体験し、お寿司好きの彼女らしくタイのお箸置きを作り、夜は友人とパーティーをしました。そこで彼女は、自分の事やテキサス州について一生懸命話してくれて、私達家族だけでなく、友人にとっても身近な国になったのではないのでしょうか。私と彼女はよく「We are Twins.」と言っていました。その後、温泉に行き、文字通りの裸のお付き合いをする事ができ、その夜の5才の息子の「おやすみなさい。」は自然に「Good night!」に変わっていました。

とても短いホームステイでしたが、米国が私たち家族にとってぐっと近い特別な国になりました。その国に大切な友人がいるって本当に素敵だし、身近に感じられます。このホームステイが私たちの友情のスタートとなり、ずっと続けていけると良いと思います。



ホストファミリーと記念撮影



津島市長と記念撮影



ホストファミリーと記念撮影



着物を着せてもらう参加者



津島神社で記念撮影

田原 (愛知県)

< 担当者より >

初日はまず蔵王山とウィンドファームを見学しました。曇り空でしたが、参加者は風力発電装置に感銘を受けたようでした。他に田原市博物館や祭り会館を見学し、田原伝統の凧文化を勉強しました。すべて手作業でつくる凧の奥深さを知ることができ、たいへん感動しました。凧保存会会長さんの丁寧な指導の下、小さな凧作りに挑戦し、指を糊だらけにして完成。みなさん素敵にできました。学生のみなさんは、お隣地域の五並中学校の連凧のギネスブック記録に興味深深の様子でした。最後には極小サイズの凧(ちゃんと揚がるそうです。)が入った、会長さんの小粋な名刺をいただき大満足でした。

Kファミリー 参加者: Mr. W

我が家はホームステイの受け入れは初めてでしたので、とても心配でした。しかし娘(小2)が「英語はしゃべれないので、日本語を教えてあげる」と言い、初めてにもかかわらず安心して対面することができました。

対面してから、二女(年中)の幼稚園のお迎えに行きました。園で我が家のゲストは子供達から声をかけられていました。ニコニコ笑っていました。

家に帰ってからプレゼントの交換や写真を見せ合ったりしていました。お祭りの写真を見せた時にとても興味深そうにしている、写真が欲しいということだったので、主人がやぐらに乗っているの、手筒花火を上げている写真をプレゼントしました。

その日の夕食は彼の家族とホストファミリーが集まっての食事会でした。とても楽しく過ごしました。

2日目は海へ行きました。最初は見ていただけでしたが、途中から娘達と海に入りました。昼食は大衆食堂で天井と注文し、食べました。初めて天井を食べたと言っていました。その後公園で自転車に乗ったり、サッカーをしたりしました。夕食は手巻きずしにしました。「何でも好きな物を入れていいよ」と説明すると、マグロ、タコ、納豆…いろいろな物に挑戦していましたが、すべてのものにテリヤキチキンと一緒に入っていたような…。昼間海に行ったので日焼けで顔や首が真っ赤になってしまいました。「お父さんが見たらびっくりするね」と言うと、笑って「大丈夫…」と。

3日目。私たちは家族で犬山にゲストと行くことができました。前日に一緒に過した友人が朝お別れに来てくれました。手紙と、日本のガムを彼にプレゼントしていました。車内では彼のお母さんの話や兄弟ゲンカはするかとか、いろいろ聞いてみました。犬山に着いてからも楽しく過ごしました。ゲストがいつも娘達の事を気にしてくれたこと、とてもうれしく感じました。3日間だけでしたが、彼とお別れするのがつらい程楽しく過ごしました。ゲストとお別れして2週間がたちますが、娘も私も「また来てくれないかね～」と話をしています。いい思い出をありがとうございました。



風力発電装置を背景に記念撮影



凧を見学する参加者



凧作りに挑戦



凧作りに挑戦



凧が完成



ホストファミリーと記念撮影



明治村でも一緒に過ごす

美濃 (岐阜県)

< 担当者より >

岐阜県の南東に位置する美濃地方において、伝統的な文化である美濃焼きと、美濃和紙についてその歴史を学び、体験していただきました。

美濃地方の中でも、古くから美濃焼きが盛んな土岐市にあるどんぶり会館に行き、さまざまな種類的美濃焼きを見、美濃焼きの歴史や製造方法などを学び、陶芸家の作製風景も見学することができました。

その後、窯元にて手びねりによる陶芸体験をしていただきました。

小原村(豊田市)にある和紙のふるさとでは、様々な和紙の作品を見て、和紙づくりの体験をしていただきました。

また、美濃地方の名物である「五平餅」を作り、ホストファミリーと一緒にパーベキューをして楽しみました。



和紙作りで素材を選ぶ参加者



和紙作りに挑戦

Hファミリー 参加者: Mr. & Mrs. H

今回、ホストファミリーの参加は2回目でした。美濃に来てもらった方は皆優しかったです。皆さん気を使って頂き申し訳なかつたです。自宅での陶芸体験は、皆さんとても楽しそうに、また真剣に取り組んでもらえて本当に良かったです。ほとんど英語の話せない私達の身振り手振りでの陶器の作り方の話も耳を傾けてもらって両親も喜んでいました。夜に「とっくり村」という所に行った時も、熱心に見学され、一つずつとっくりの写真を撮っているのが印象に残りました。

言葉がなかなか通じなくて悔しい思いもしましたが、でも、とっても優しかったし、私達と話がしたいと思っている様子が私たちにも伝わったので、とにかく頑張って話して、その結果全部は通じなくても少しでも話したいことが分かってもらえるなら、と一生懸命できたので良かったと思います。

前回、ホームステイに来てもらった人達とは、あれ以来連絡が途絶えてしまいましたが、今回は、メールも送り、自宅前で撮った写真も郵便で送りました。せっかくの出会いが無駄にならず、連絡が続いているので前回より、受け入れる私たちも進歩できたのではないかと思います。これからも続いていけば良いと思っています。

本当に、受け入れる私たちもステキな経験ができたのではないかと思います。

ありがとうございました。



和紙作りに挑戦



和紙作りに挑戦



陶芸への理解も深める



陶芸の制作へ興味津々



手びねりによる陶芸に挑戦



高山 (岐阜県)

< 担当者より >

24日は午前11時頃に高山に到着された皆さんを、高山市役所とボランティアの方でお迎えした。日本人もアメリカ人参加者も、互いに自己紹介をし、オリエンテーション。その後飛騨高山国際交流協会さんが用意して下さった昼食を取り、高山の歴史や午後、見学にまわる高山陣屋の説明をした。

その後、高山の古い街並を歩いて見学。陣屋や屋台会館等を見学し、しっとりとした美しい街並を堪能して頂いた。その後、夕方にホストファミリーと対面しそれぞれの家庭へ。

25日は一緒にまわりたいというホストファミリー3家庭も加わり、「宮川朝市」の見学からスタート。野菜や漬け物、お菓子などに加え、地元の人の顔を見ながらのお買い物。その後、「飛騨の里」へ移動し、古い民家を移築した建物を参加者は興味深そうに見学した。午後からは高山の家具工場の見学をしたが、皆、昨日の高山の古い街並をよほど気に入ったようで、早めに切り上げ再び古い街並の散策をした。その後、山田焼きの体験。ろくろや手びねりでの焼き物づくりはなかなか難しかったようだが、日本の伝統的なものにたくさん触れ、楽しんで頂けたと思う。



ホストファミリーと記念撮影



ホストファミリーと記念撮影



ホストファミリーと記念撮影

Nファミリー 参加者: Ms. H

市役所の会議室で初めて顔をあわせる時は少し緊張していましたが、ゲストの方と会い、あいさつして話しているうちにとても気さくな方でホッとしました。何日か前から、夜は何をして過ごそうか、何を食べるのだろうという心配していましたが、会って直接本人に聞いていくうちに、心配することなんかなく、直接聞いてその時に決めていけばいいのだとわかりました。英会話は習っていましたが、はたしてどこまで通じるのかということも心配のひとつでした。しかしこれも心配するより、とにかく自分の出来る範囲で話しかけ、わからないことは辞書を持ちたりして楽しく会話することができて、英語に対して少し自信が持てた体験となりました。

2日目はゲストの方々と一緒に高山市内を観光しましたが、みなさんが不思議に思っただけで聞かれることにあまり答えられず、自分自身が高山についてあまり知らないことに気付かされました。

ゲストのみなさんは英語で話されるので、その中に一緒にいると、高山にいるのに高山ではない感じもして奇妙な感覚でしたが、ゲストの方々とは初対面の私に親しげに話していただき、とても楽しい一日をすごすことができました。

2日目の夜はゲストが温泉へ行ってみたいとのことだったので、家族で温泉に入りに行き、家へ帰ってからお寿司を作りました。料理が趣味とあってアメリカでもお寿司を作るそうですが、巻き寿司とちらし寿司を教えながら一緒に作るときばきと手際よく作っていました。家族で作ったお寿司の味は格別においしかったです。

最終日の朝、市役所前でバスを見送る時はさみしくて涙が出ました。2晩だけのホームステイでしたが、この体験でたくさんの人と知り合えたことに感謝したいと思います。

Oファミリー 参加者: Ms. A & Mr. K

初めてのホストファミリーの経験でした。私達夫妻は英語は話せないし、少し不安でしたが、なんとかなるだろうと言う意気込みで引き受けました。わが家にはAさんとKさんの御夫妻に来ていただきました。奥さんは日系3世の方でした。御夫妻は7回程来日されているので日本の家庭生活も大分わかっていて、その点気楽に過すことが出来ました。御主人は日本語があまり話せませんでしたが奥様の方は少し話すことが出来、又わからないことは事典で調べ積極的に単語をならべて話してくれました。しかしどうしても通じにくい言葉があり、東京の娘の所へ電話して聞いてもらいました。それによると7月25日朝市見学を取りやめ、近所の美術館を見学したいとのことでした。

次の日美術館に行く前に提灯屋とデンバー公園を見てもらいました。丁度デンバーからの来高だったので大感激でした。美術館ではその日の結婚式が有り、日本の娘さんの振り袖姿に感激、いっしょに写真撮影していました。

食事の方は一応少しづつ、和、洋食をバラエティに作って出してみましたが、マグロのさしみ、天ぷら、すし、とうふのステーキ、からあげ等喜ばれました。ラーメンを少し出してみましたがつゆのある麺よりも、クルージングで行った犬山でパフェスタイルの食事の時に焼そばの方が良かったようでした。ドリンクの方も奥さんはノンアルコールなので自家製のシソジュースにレモンを絞って出しましたら喜んでくれました。御主人はビールに日本酒をのまれました。又温泉が好きと言ったのでグリーンホテルの温泉に行ってきた。大喜びでした。クルージングセレモニーにもいっしょに出席し、犬山城登閣アトラクションも楽しみ最後にホテルの近所のレストランで食事をし、おわかれをさせていただきました。



ホストファミリーと記念撮影

伊賀 (三重県)

< 担当者より >

～ 忍者の里・伊賀を楽しもう～ 伊賀では、ホストファミリーと過ごす時間を大切にしたいと考え、期間中のフリーな時間は、全てホストとゲストでスケジュールを考えて伊賀のまちを満喫しました。やはり、1番人気は忍者屋敷で、忍者衣装に着替え、手裏剣投げなど忍法も体得し、皆伊賀流忍者の継承者気分でした。他にも、各地域の方々色々な意見を出し合い、様々な企画を考えてくれました。折り紙教室、習字、うちわ作り、お茶、バーベキューパーティーなどなど。人と人とのふれ合いを大切に感じた分科会でした。



忍者の格好を楽しむ参加者

Zファミリー 参加者:Mr. G & Mr. T

22日午後6:00 ゲストと初対面、彼の第一印象はシャイな男子でした。部屋を案内した後さっそくコミュニケーションタイム!! 日本の好きな食べ物は、すし、味噌スープ、フライライス、ハンバーグ、カレーライス。今日のところは、とりあえずカレーライスでええやろで決めたディナーメニューはBingo!!
 夕食後、少し遅れて到着した別のゲストと初対面。彼の第一印象は気のいいお兄さん。日本の好きな食べ物は何でも!! 2人を連れてショッピングに出かけたが、長旅の疲れで2人ともLowテンションだった。23日は、エキスポへ... エキスポは家族が行ってあったので、思い出話に花が咲く。また、伊賀市在住のALTが遊びに来てくれ、大変盛り上がったディナータイムとなった。1人のゲストは、将来ALTになりたいと思っているのか、伊賀のALTに色々質問をしていた。また、もう一人は兄として本当に良く面倒を見てくれた。
 24日は、大山田中学校で1日を過ごす。学校行事エコ集会にも参加。息子とも打ち解けた1日となった。夜のディナータイムもかなり盛り上がり、その後ナイトウォーキングかねて蛸鑑賞にも行き、僕の農業プロフェッショナルの友達を紹介した。
 25日は、1日ホストファミリーと過ごす日。本人達の希望により奈良へLet's Go!!奈良の大仏を熱心に眺める姿や写真を撮る姿は、本当に日本について勉強していることを実感させられた。その後、別のゲスト、ホストファミリー全員でのBBQパーティー。温泉が好きという事だったので、食べて騒いだ後“さるびの温泉”で楽しく汗を流した。
 26日は、明治村へ。最後の夜は2人の好きな“おすし”を食べ、また、お互いの思いに残るメッセージ、プレゼント、写真のやり取りをした。2人を受け入れた6日間、私たちにとって最高の思い出となった。
 To my guest, come back anytime! From your host family.



ホストファミリーと記念撮影



ホストファミリーと記念撮影

Kファミリー 参加者:Ms. M

このホームステイを引き受けてから、わくわくしながら、その日が来るのを待っていました。いよいよ対面の日、椅子に座ったゲストは、とても恥ずかしがりやでした。でも、日本語でしっかりと挨拶してくれました。
 我が家に到着して、大家族との出会い。夕食の日本食は、ベジタリアンの彼女にとって食べにくかったようで、あまり食が進みませんでした。
 翌日は愛・地球博の見学。疲れて帰ってきました。夜は娘達とボーイフレンドの話で盛り上がり、なんと私の娘はそのボーイフレンドのホームステイ先に電話をかけて、話をしたのです。「あなたは素敵!」と英語で連発する娘に、ボーイフレンドはびっくりして受話器を落としてしまったようです。同世代の娘達は共通する話題が沢山あり、夜遅くまで話をしていました。
 3日目は、他のゲストとともに地元の柘植中学校を訪問し、英語の授業に参加しました。午後はALTの先生とサイクリングを楽しみました。歴史資料館では、そろばんを見て、目を輝かせていました。そして、公民館で太鼓にも挑戦しました。ばちの持ち方から教えてもらって、大きな太鼓も叩きました。大きな音にびっくりしていましたが、初めての経験を喜んでいました。夕方から別のゲストと一緒にスーパーマーケットに行きました。百円均一の店では、沢山ある中からスタンプやおもちゃを選んで買いました。行く車の中で、そのスーパーマーケットは漫画を売っているのかと聞かれました。「たくさんあるよ」と返事をすると、顔がほころびました。彼女はイラストを描くのが大好きで、本屋に行くとき好きな日本の漫画を探しに行きました。漫画で一番お金を使ったと思います。でもたくさんの漫画を手に入れて、彼女はとっても満足でした。夕食は、日本のお寿司。回転寿司です。食べられるネタを探して、私に「これは何?」と聞きます。私は、電子辞書を片手に説明しました。おなか一杯になった彼女とともに次に向かったのは、カラオケです。大好きなカラオケに、次から次へと歌う彼女。いつものシャイな面とは違う面を発見しました。当たり前のことなのですが、さすがに英語の歌は、カタカナを読んで歌っている私とは違って、とても上手でした。カラオケで思う存分歌ったので、次の日の午前中は家でゆっくりしました。午後は、いがまち人権センターのチャレンジ教室に参加し、小学生に交じて一緒に折り紙をおりました。風船、うさぎ、くす玉、鶴、チューリップ。とても上手なのでびっくりしました。小学生に名前を尋ねてくれて、小学生がそれに答える場面もありました。この日の夜、蛸を見に行くことにしました。近くの川のそばで車のハザードランプを点滅させると、今まで見たことがないほどたくさんの蛸が寄ってきました。ゲスト達の服にとまって光を放っている蛸たち。彼女たちは、歓声をあげながら、蛸の乱舞をしばらく見ていました。
 このホームステイを通して、自分の英語が発音の悪さのために通じにくく、また、彼女から言われたことの意味がわからず、結局書いてもらって読んで理解することがたびたびありました。ヒアリングに弱い私でした。でも、気持ちを通じ合えたと、彼女の表情を見てわかりました。言葉じゃなく心です。これから、手紙やメールで交流を深めていこうと思っています。
 伊賀を十分楽しんでもらったかな。また今度日本に来ることがあれば、この6日間のことを思い出してもらえるのかなと考えています。
 このような貴重な経験をさせていただいた関係者の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。